

会報
86号



函館の歴史的風土を守る会
会報編集部
発行所 函館の歴史的風土を守る会
事務局 函館市五稜郭町43-9
五稜郭タワー株式会社内
電話(0138)51-4785
印刷所 祐三和印刷 電話45-0845

開港5都市景観まちづくり会議・新潟大会 —— 函館より11人参加! ——



10月26日～28日の3日間、新潟市民プラザで開催の新潟大会に「歴風会」関係者7人を含め函館より11人が参加した。

従来、函館市以外での開催には、3～4人の参加で推移してきた経過の中では久々の快挙であった。それだけに佐々木新会長の次回平成25年函館市開催にかける意気込みの強さがうかがわれた。

新潟大会 一口メモ 開港5都市景観まちづくり会議・新潟大会スケジュール

26日(金曜日)

13:30～ 受付開始 会場/新潟市民プラザ

14:00～16:30 全体会議Ⅰ

開会式 基調講演「開港場・新潟からの報告～イギリス外交官が伝えたこと～」 青柳正俊氏 開港5都市参加団体活動報告

18:00～20:00

ウェルカムパーティー 会場/鍋茶屋

27日(土曜日)

分科会1 「米が奏でる景観」を探る

分科会2 湊町新潟と花街の文化を訪ねて

分科会3 水と土との共生から生まれた暮らしと文化

18:00～20:00 オプションツアー ～うまさぎっしりピアBandai 食の陣～ 会場/ピアBandai

28日(日曜日)

9:15～9:50

代表者会議 会場/旧第四銀行住吉町支店会議室

10:15～11:30

全体会議Ⅱ 会場/みなとびあセミナー室

分科会報告・代表者会議報告・大会宣言

大会旗引き継ぎ・次回開催地代表者あいさつ

主催者謝辞

開港5都市 景観まちづくり会議・新潟大会に参加して

函館の歴史的風土を守る会

会長 佐々木 馨

去る10月26日～28日の日程で上記の大会が開催された。歴風会から私を含め7人(清野・吉村・新城御夫妻・桜井・我満各氏)と伝建保存会の小林氏、一會の会の林氏そして行政から都市建設部の戸内部長・同都市デザイン課の長谷部主査の総勢11名が参加した。この種の大会参加は初めてでもあり、期待と緊張の三日間であった。その概要と若干の所感を報告することにしたい。

初日は全体会議Ⅰ(開会式・基調講演・各都市の活動報告)とウェルカムパーティが催された。英国外交官の報ずる明治初年の開港場・新潟の様子を浮き彫りにした基調講演には、比較史的に啓発され有意義であった。函館からの活動報告は、

私の方から都市景観条例の改正のことと歴風会の「今と昔」について具体的に紹介した。ウェルカムパーティの会場は、1846年創業の老舗料亭「鍋茶屋」。この歴史的な建造物のたたずまいと新潟古町芸妓の舞を楽しみながら、次年度の函館開催のPRに努めた。

二日目は三つの分科会に分かれての街あるきやバスツアー、ディスカッション。分科会1は「米が奏でる景観」を探る。同2は「湊町新潟と花街の文化を訪ね

て」。同3は「水と土との芝生から生まれた暮らしと文化」。

三日目は代表者会議と全体会議Ⅱ。後者の会議では分科会の報告と大会宣言のあと、私が大会旗を引き継ぎ、次年度開催について歓迎の意を述べて散会となった。

最後に個人的な感想を少し申し述べて結びたいと思う。

これまでも史料調査で佐渡島に三度ほど渡っているのに、新潟市には足を運んでいるはずだが、素通りする形であり、その意味で新潟市を真正面から垣間見たのは今回が初めてであった。分科会1に参加して、今日の米と酒の食文化を語る新潟

市の亀田郷が大洪水と乾田化の格闘の上に成ったことを実地に観察できたことは大きな収穫であった。

今日の新潟大会は、その「らしさ」を十分に表出しており大成功であったように思う。来年はいよいよ、われらの番である。最北の開港場にふさわしい函館大会になるよう、しっかりと企画・準備し平成25年9月7～9日を迎えましょう。宜しく御支援の程、お願いします。



「新会員の募集」

当会では、新会員のご入会を募っております。

会費は年会費として

- ・個人会員会費 3,000円
- ・個人学生会費 1,000円
- ・団体会員会費 5,000円

多くの方のご入会を心よりお待ちしております。

開港5都市 景観まちづくり会議・新潟大会に参加して

函館市都市建設部都市デザイン課
長谷部 毅

安政5年(1858)、日米修好通商条約が締結され、函館・横浜・新潟・神戸・長崎の5港が開港され、この5都市において活動している市民団体が集い、街づくり活動に関して交流や意見交換を行うことを目的に、各都市持ち回りで開催されている。

今回の新潟大会は、平成24年10月26日から28日までの3日間の日程で開催され、「新潟の「らしさ」を求めて～過去・現在・未来へのつながり～」をテーマとし開催された。

初日の全体会議では、基調講演として、新潟県立歴史博物館副館長の青柳正俊氏が、「開港場・新潟からの報告」と題しまして、イギリス外交官が伝えたこととして、開港港として指定されながらも、港の水深が浅いため大型船による交易に適していないことや、港を支える後背地に乏しかったこと、また、地元努力が足りなかったことから、開港港として大きく発展しなかったを教えられた。

しかしながらも、新潟の町は発展を続け、北洋漁業の基地として活用されるなど、先人たちがこの町を発展させるため、たゆまず努力してきたことを教えられた。

その後、各都市の活動報告が行われ、函館市の近況等について、函館の歴史的風土を守る会会長の佐々木馨さんから報告がされました。

2日目の分科会では、私は第3分科会に参加しました。「水と土との共生から生まれた暮らしと文化～日本一の信濃川が育んだ街並みと新たなワイン文化～」



というテーマとして、越後平野の田園地帯と、かつての湿田から現在の乾田に至った土地改良の歴史などを学びました。その後、信濃川の舟運で栄えた小須戸の町を訪れ、約110年前から続く歴史的な街並みを散策し、景観形成の取り組みについて説明を受け、さらに西蒲区の巻地域で郷土玩具「鯛車」を活用したまちづくりの事例を学んできました。

午後からは、角田山の麓のカーブドッチワイナリーを訪ね、施設を見学後、オーナーからの苦労話を聞き、水はけが非常に良い代わりに栄養分は乏しい砂地の畑に最初にぶどうを植えたのが20年前で、以来、毎年堆肥を入れたり、草生栽培をしたり少しずつ土作りを続けながら、少しずつ増えた畑は6haまで大きくなったことなど、貴重な体験談を説明を受け、大変有意義であった。

この会議に参加者としては2度目の参加であったが、新潟市のおもてなしの心が、とても印象的であり、参加された各都市のまちづくり団体の活発さが、非常に印象に残った。

最後に、どこの都市も似たような問題を抱え、それぞれ奮闘している今だからこそ、開港都市という共通点を抛り所に、助け合う関係を築いていけるよう、この会議のよりよい形も模索する必要があると思う。

来年の函館大会に向け、より一層市民と行政とで団結し、良い大会を開催したいと思う。函館より参加された皆様お疲れ様でした。

開港5都市 景観まちづくり会議・新潟大会に参加して

歴風会相談役 清野 恒夫

祖父母の地「新潟・亀田郷」

2012年の開港5都市景観まちづくり会議は新潟市で開催された。日本海回り寝台特急の廃止以降、往来困難地と感じていた北陸であったが、東京経由で出かけてみると意外にも時間的にも経費的にも、安価であり近距離の感が湧いてきた。大手バス会社のキャンペーン期間中とはいえ、東京新潟間が三千円を切る料金にはさらに驚いた。未だ高速自動車道路未開通の函館と比較すると、首都圏と地方都市とが数本の高速道路で直結し、簡単に行き来できるシステムが確立されていることは羨ましいと痛感した。

第1分科会の主テーマは「米が奏でる景観を探る・川湊新潟・阿賀野川・米・酒の魅力を探る」であり、サブテーマは「亀田郷～水との戦い～」であった。このテーマには特に興味と関心が強く湧いて参加した。

新潟県中蒲原郡亀田郷は明治20年代祖父母が北海道室蘭区札幌通りに移住するまでの地だったからである。

作家司馬遼太郎の「街道を行く・潟のみち」の一節に描かれた亀田郷の原風景である。

想像もつかないほど広大なこの一帯を人々は「芦沼」とよび「地図にない湖」とも表現した。世界に類を見ないほどの苛酷な湿地帯での農作業、人は冷たい水に胸まで浸かりながら田植えや刈り入れの作業を行って

いた。来る年も、また来る年も、わずかばかりの作に祈りを込めて繰り返す。稲は半ば水草のように浮いて育ち、海が荒れると海水が逆流し稲を腐らせてしまう年もあった。亀田郷は大河川信濃川と阿賀野川河口に挟まれた低湿地帯、3年に一度は洪水に見舞われ全く作がない年もしばしばあった。水と戦い、水と生きる、これが亀田郷に住む者の宿命であった。(亀田郷土地改良区 芦沼館資料による)

この地域が今日の発展を得たのは、昭和23年当時東洋一と呼ばれた栗ノ木排水機の完成と、その後の耕地整理による乾田化がなされた結果である。今は米どころとして全国シェアの60%をしめる米菓子の生産や醸造は日本有数を誇り土地改良事業は「水土里ネット亀田郷」として田園型政令指定都市へと発展している。

開港した新潟港は二つの大河に囲まれた三角州にあり、絶えず砂に埋もれ喫水の深い外国船の出入は困難であって決して良港ではなかった。外国人居留もわずかで明治以降の欧米文化の影響は少ない。しかし、日本海側の物流拠点として、また北前船寄港地としての賑わいが古建築、料亭建築などに色濃く表れ、現在もその名残を留めている。

信濃川にかかる重要文化財の萬代橋は美しく整備され、

万代島には31階の高層建築の朱鷺メッセがそびえている。中には県立美術館などの文化施設などを有している。ウォーターフロントでは「水と土の芸術祭」が開催されていた。横浜トリエンナーレに匹敵する現代アートやJAZZ祭が開かれて大勢の市民で賑わっていた。

120年程前、過酷で貧しい農村地帯であった故郷、亀田郷を去り未開の彼方北海道に渡る意を決した祖父母の生き様の一端を垣間みた開港5都市新潟大会への参加であった。



31年ぶりの新潟市

開港5都市 景観まちづくり会議・新潟大会に参加して

歴風会運営委員 桜井拓郎

私は10月26日と27日の2日間だけでしたが、「開港5都市景観まちづくり会議新潟大会」に参加してきました。初日に新潟空港で荷物待ちをしていた時に吉村先生とお会いし、ご一緒に「全体会議Ⅰ」の会場である「新潟市民プラザ」に行きました。会議は終わりに近づいていましたが、幸い開港5都市参加団体活動報告には間に合い、佐々木会長による函館の報告も聞くことができました。夜は、新潟を代表する老舗の料亭「鍋茶屋」でウェルカムパーティーが催され、古町芸妓の踊りも鑑賞しながら、美味しい料理とお酒で5都市の方々と交流を深めました。二次会では、新潟県議会議員の上杉さんのご案内で、函館のメンバーの皆さんと共に、古町通の夜を満喫しました。

翌27日は、吉村先生・新城さんご夫妻とともに「分科会Ⅱ」に参加しました。午前中に旧英国領事館跡石碑のある勝楽寺、旧新潟刑務所跡、「鍋茶屋」、「行形亭」(いきなりや)、「旧齋藤家別邸」などを見学した後、料亭「古三」で昼食をとり、午後からは日和山、住吉神社、「旧小澤家住宅」を見学し、湊稲荷神社では回転する「願懸け高麗犬」で願かけをしました。そこから信濃川河岸へ向かい、田中屋本店で新潟名物「笹団子」づくり体験をした後、新潟市歴史博物館「みなとぴあ」の「旧第四銀行住吉支店」ホールで情報交換会を行い、終日にわたる見学会を終えました。

私事になりますが、私は高校の教員になる前に地元紙「新潟日報」に勤めていたことがあり、新潟市は社会人の一年目を過ごした思い出の街です。常駐していた新潟市政記者クラブがあった市役所跡のNEXT21、度々取

材に訪れた「旧新潟税関庁舎」(新潟市歴史博物館、当時は新潟市郷土資料館)や、給料が振り込まれていた、日本現存最古の旧国立銀行「第四銀行」その他、街中の何をみても懐かしさが込み上げてきました。その夜は、昔よくキャップ(キャプテンの略、記者クラブの長)に連れて行ってもらったホテルの居酒屋で、新潟日報の元上司や同僚と31年ぶりに懇親を深めました。二次会では、明治7年(1874)創業の日本最古のイタリア料理店である「ホテルイタリア軒」にも連れて行ってもらいました。皆お互いさすがに歳をとりましたが、人情も街並みも昔のままの新潟にふれて、すっかり嬉しくなりました。

仕事の関係で最終日は帰路につき「全体会Ⅱ」にも閉会式にも出席できませんでしたが、改めて街並み保存の大切さを思い、来年の函館大会ではできるだけのお手伝いをしたいと、決意を深めた2日間でした。参加のお誘いをいただいた歴風会の皆様、お世話いただいた函館市役所都市建設部の皆様、本当にありがとうございました。



2012 開港5都市景観街づくり会議 新潟大会報告

(平成24年10月26日(金)27日(土)28日(日)) 来年の函館大会を控え、函館からは11名が参加しました。(うち歴風会は7名が参加) 各都市(横浜・長崎・神戸・新潟)との意見交換をし、今後の街のあり方を検討方向づける大会です。27日は、三つ分科会に別れ、各所を見学し28日は各分科会の報告と意見交換し、次期開催の函館からの挨拶を行いました。

歴風会運営委員 新城 光 正



新潟市民プラザでの**全体会議 I**の開会式(26日昼)



ウェルカムパーティ(26日夜)
左図の老舗料亭「鍋茶屋」で行われました。創業1846年(ペリー来航以前の古さです。)会場は200畳の和室で行われました。(下図)新潟市民にとっても敷居が高い会場だそうです。



27日の**分科会2**では湊町新潟と花街の文化を訪ねてのコース午前9時から午後4時までの長時間の散策コースでした。上から旧齋藤家別邸・旧小澤家住宅等を見学、更に体験ツアーもあり笹団子作りを体験、うまく笹に団子を包んだようですが、蒸してできた団子は、あんが団子からはみだしてしまいました。



京都祇園、東京新橋並び称されてきた新潟古町芸妓

この会場でも唄や踊を披露しました。佐々木会長の左隣は新潟市の市長、終了するまで接待していました。



吉村副会長と桜井運営委員の出来具合はいかに？



開港5都市景観まちづくり会議 函館大会開催

平成25年9月7日(土)・8日(日)・9日(月)

◆会議の目的

安政5年(1858)開港された函館・新潟・横浜・神戸・長崎の五都市の市民が景観、歴史、文化、環境などを大切に守り、愛着をもってそだて、個性豊かで魅力のあるまちづくりを行うため、相互に交流を深め、課題を協議し、開港五都市のまちづくりの推進に資する。

◆会議の沿革

平成5年(1993)8月、第1回神戸大会が開催され、以後順次五都市で開催されてきた。函館は平成9年(1997)第4回、平成14年(2002)第9回、平成19年(2008)第14回の大会を終え、平成25年(2013)9月7日～9日、4巡目の第19回大会を迎える。

◆第19回函館大会

従来約15団体で実行委員会を結成し、歴風会が実行委員長を担って来た。第14回時には地元120人外部60人計180人の参加者であった。今回もそれに近づく努力をしたい。本年9月14日には第1回目の実行委員会が開かれ、12月中に第2回実行委員会が開かれる予定である。



前回 第14回開催時のスナップ

歴風会

第35回 函館の町並みを美しくする 新春チャリティー・パーティー

街並み基金をつくるタベ

- 実行委員長 茶道具処(株)オオタカ 代表 内山 幸恵氏
- 副実行委員長 金森商船(株) 代表取締役社長 渡邊 兼一氏

第35回 歴風文化賞候補

原風景



「原風景」 函館の夜景 撮影 フォトバンクM'S 坂本政博

保存建築物



北斗ビル



株式会社 飯島商店



太平洋セメント株式会社 倶楽部



落合治彦邸

日時 / **2013年 2月15日 [金]**
午後6時30分

場所 / **五島軒本店** 末広町4-5

- 内容 / ● 歴風文化賞表彰
● 歴風文化賞紹介
● ディナー ● アトラクション
● チャリティービンゴ (景品多数)
● プレゼントクイズ

会費 / **5,000円** (チャリティー分を含む)

※ 参加御希望の方は、会場の都合上2月8日(金)までにチケットを購入願います。(担当: 対馬 誠 ☎46-8104)

※ パーティー終了後に、会場より函館駅前経由五稜郭電停までバスが運行されますので ご利用下さい。

小学生・中学生による 第10回 ふるさと写真コンクール

● 実施要領 ●

2013年1月31日(木)

・・・応募締切

2013年2月8日(金)

・・・入選者審査

集合時間：午後1時00分

場 所：函館市地域交流まちづくりセンター3階

2013年2月12日(火)～2月17日(日)

・・・公募展(場所：函館駅2階イカすホール)

(2月12日は午前中公募展準備、午後より開催)

2013年2月17日(日)

・・・表彰式(場所：函館駅2階イカすホール 午後2時より)

2013年2月15日(金)

・・・第35回チャリティーパーティー会場で、入選作品展示(五島軒本店)

2013年2月18日(月)～2月24日(日)

・・・公募展(場所：函館市地域交流まちづくりセンター)



イカすホール会場

平成24年度 歴風会 〈担当者〉 一覧

- 小山邸ワークショップ —— 吉村・佐藤・小山
- チャリティーパーティー —— 対馬(誠)・対馬(栄)・我満・吉村・清野・藤井(康)・斉藤(き)
- ふるさと写真展 —— 新城・林・小阪・深澤・佐藤・佐久間
- 会報等の発行 —— 落合・雄谷・尾上
- ホームページの管理・更新 —— 村田(貴)・新城・尾上
- 開港5都市函館大会実行委員会 —— 佐々木・桜井・小山
- 全国町並み保存連盟等 —— 落合
- 残したい函館の制作・活用 —— 原・吉村・藤井(信)
- 見て・聴いて・考える町並み —— 吉村・我満・新城・林・対馬(誠)
- 五稜郭公園城址の世界遺産登録運動 —— 若山・石井・石黒
- 歴風記念誌の販売 —— 我満・柳田・尾上
- 広報(P R) —— 我満・林

北斗市歴史的建造物 見学会報告

歴風会相談役 落合 治彦

平成24年10月13日、北斗市の見学会に12名参加した。

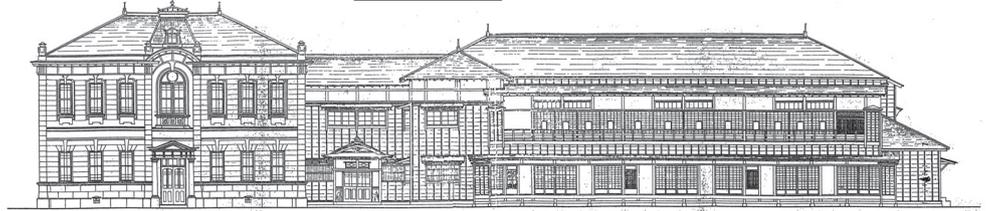
①太平洋セメント(株)倶楽部

大正8年「浅野セメント」時代に建立された122坪(余)の木造二階建。現在大広間は独身寮、遊戯室(ビリヤード)は会議室に改築されているが間取りや外観は当時の面影を残している。

土・日の閉社日にも拘わらず、総務課の中川氏の案内を受けた。

- ②久保田利光邸(平成24歴風文化賞)の庭園を見て
- ③種田剛邸(平成21歴風文化賞)では剛氏御夫妻の案内で内部を見学出来た。古い調度品や豪壮な建物に感服した。
- ④種田英治邸(平成19歴風文化賞)は明治30年以前に建てられた木造家屋。前浜や木古内町はじめ余市、古平等で漁場を営んだ網元の居宅で、屋根囲り以外殆ど改築されず、保存されている。
- ⑤島津邸(平成19歴風文化賞)古くこの地一帯は漬菜町と呼ばれたことから「ツケナ御殿」と呼ばれた大地主の福土家が住んでいた。戦後島津邸となり、屋根瓦のふき替えが行われた。最近更に所有者が変わったようであるが幸いにも建物は保存された。
- ⑥熊谷邸(平成10歴風文化賞)＝国指定登録文化財＝

正面



〈太平洋セメント(株)(旧浅野セメント)倶楽部 建築当時の図〉

北斗市で最古の建造物と云われ、平成5年の奥尻地震で壊滅的な被害を受けたが熊谷孝泰氏の努力で復元された。

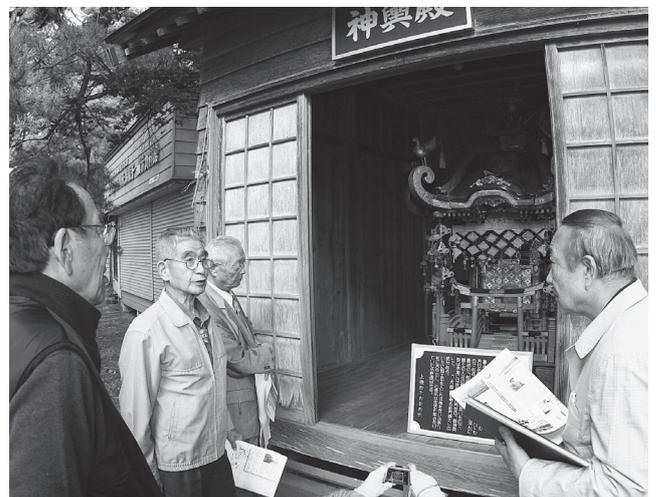
- ⑦落合邸 嘉永元年(1848)滋賀県落合村より渡道して、木綿物の行商を始めて5代150年になる。(平成元年廃業)。当市では数少ない土蔵造り店舗は平成5年の奥尻地震で崩壊した。居宅は昭和9年に建築された。

商家建築でとり立て、特筆されるものは見当たらないが建築用材の数量や諸費用の克明な記録が残されている。

移動中、広徳寺の種田家、福土家、堀口家(大沼だんごの名家)の墓参りをし、高田屋嘉兵衛の時代、北斗市や七飯町の開拓に尽力した石坂武兵衛家族の墓参りし、種田家宗家の有川大神宮で六角形御輿を拝観した。



熊谷邸の見学



有川大神宮 六角形御輿の見学

戸井アーチ橋見学会報告

歴風会運営委員 小山直子

11月10日(土曜日)、道路整備のため12月に
取り壊しになる戸井アーチ橋の見学会を実施
しました。今年高専を退官された葦澤先生に
協力いただき、旧戸井線やアーチ橋の歴史や
価値を説明していただきましたので、大変充
実した見学会になりました。

アーチ橋は4か所ありますが、今回取り壊
しになる「蓬内橋」が一番奥にあるものです。
軽乗用車が通れるほどの幅があり住民が道路
として使用していましたが、老朽化している
ため近隣住民からは災害で倒壊しないか心配
との声が大きくなり、さらに避難所である町
会館に行くために道路整備が必要ということ
もあって取り壊すことになりました。葦澤先
生達は、土木遺産として残せないか戸井支所
に申し入れをしていましたが、施設の安全性・耐久性
への不安から同意が得られませんでした。今後、他の
三アーチ橋の存続については、まず蓬内橋の解体時に
耐震性を調査し、その結果が出てから検討すること
になっています。葦澤先生によるとアーチ径10m以下
の場合は無筋のようですが、蓬内橋は10m以上あります
から現代では貴重な竹筋かもしれないそうです。そし



取り壊されるアーチ橋

て、戸井線目的地の「汐首砲台跡」や、「武田斐三郎の
古武井溶鉱炉跡」、「恵山貝塚」、「南茅部縄文遺跡群」
などを結んで、函館地域の宝探し企画を考えると郷土
の歴史や地域の記憶を学ぶための絶好の地域遺産とな
るとおっしゃっています。

アーチ橋見学の後、戸井線目的地である戸井高校奥
に残る「汐首砲台跡」を見学しました。迷彩色に塗ら

れ周りの木々と一体となった砲台で
す。さらに、昨年、歴風文化賞に選
定された明治28年築の「宇美ユキ子
邸」と「レンガ造り蔵」を見学させ
ていただきました。最後に、戸井が
鯛漁でにぎわっていた時代の象徴で
ある「袋澗」を見学しました。袋澗
は、大漁の鯛を一度に加工すること
ができないために、一時的な保管場
所として海岸線に作られたものです。

砲台跡や袋澗は看板や案内文もな
いため、今では忘れられた存在とな
っています。郷土の歴史や地域の記
憶を後世に伝えるために歴風会とし
て何ができるか、課題が出された見
学会でした。



戸井港の袋澗

会務日誌

H24. 3. 24
第29回表彰式
第34回チャリティー反省会

H24. 5. 19
H23年度総会 佐々木馨新会長となる。

H24. 5. 25
「北前船寄港地フォーラム」会員参加

H24. 5. 31
第1回 運営委員会 事業担当者決定 (P9参照)

H24. 7. 7
五稜郭タワー第34回文化発見企画

H24. 8. 9
吉村富士夫副会長「函館の歴史的建造物の楽しみ方」講演
第19回 開港五都市 函館大会 準備会

H24. 9. 2
NPOまつり (パネル参加)

H24. 9. 22
「見て・聴いて・考える町並み」
(吉村・我満・林・対馬・新城会員 講師参加)

H24. 9. 26
開港五都市函館大会 第1回 実行委員会

H24. 9. 27
第5回 運営委員会 勉強会
〔市長提言書〕について 原一彰会員)

H24. 10. 13
北斗市歴史建造物見学会 12人参加

H24. 10. 15
開港五都市函館大会 第2回 実行委員会

H24. 10. 25~26
全国町並ゼミ 第40回歴史的景観都市協議会
(佐渡市)

H24. 10. 26~28
開港五都市新潟大会 11人参加

H24. 11. 7
まちづくり講座 (市主催 於タワー) 会員参加

H24. 11. 10
戸井アーチ橋見学会 (葦澤先生講師)

H24. 11. 14
景観条例・屋外広告物条例説明会に参加

H24. 11. 30~12. 5
全国町並みゼミ 福岡大会

H24. 12. (上旬)
第10回 写真展チラシ各校配布
(函館市・北斗市・七飯町)

H24. 12. 29
第1回 チャリティー実行委員会

H25. 1. 31
第10回 写真展応募〆切

H25. 2. 11
第2回 チャリティー実行委員会

H25. 2. 12~17
第10回 写真展 (イカすホール)

H25. 2. 15
第35回チャリティー 第29回 文化賞表彰式

H25. 2. 16
全国町並みゼミ 関東ブロック会議in真壁

*** 編集後記 ***

◇12月16日衆院選挙で政権交代!
想定内か一外か?どちらであっても先の震災避難者への救援活動は一刻の猶余もない。来年3月で2ヵ年が経つのに、多勢の人々が故郷に戻れないでいる。

◇2015年新幹線が開通する!その効果を期待する人も多いが、来る人よりも出る人が3倍との話もある。函館から人が居なくなるかも知

れない?

◇今こそ市民一人ひとりが、先人が築き上げて来た函館の歴史と伝統を守り伝えていく気概をもてば人口は3倍になるのではないかな? 函館の魅力は夜景やグルメだけではない!

◇これからが“歴風会”の出番だ。その歩みは遅くとも一歩ずつ進みたい。

◇本号の写真は、長谷部氏、新城、対馬(誠)、佐々間会員によりました。

(文責 落合治彦)